



第二ぎんなん便り

社会福祉法人つなぐ育成会
本市手をつなぐ作業所
第二ぎんなん作業所
平成28年12月27日発行
第367号

1年間、大変お世話になりました

〇障がいのある人たちと関わる仕事に携わることの幸せ

4月に大地震があった激動の熊本も、あとわずかで新しい年を迎えようとしています。



私自身、3月で教員を定年退職、そして、4月から熊本市手をつなぐ育成会に入り、ここ第二ぎんなん作業所での勤務と、生活が大きく変わった1年でしたが、35年間の教職生活の間、ずっと障がいのある子どもの教育に携わることができ、さらに、退職後もこうして障がいのある人たちと関わる仕事をいただいたことは、本当に幸せなことだと感謝しています。

先日の熊日新聞の投書欄に、「障がい者との触れ合い笑顔」という題名で、西原村の方が、地震で仕事を失ったものの、障がい者就労センター指導員という職を得て、「今や私の大切な場所となった。」「日ごろの利用者との触れ合いも楽しい。」「おかげでいつも笑顔でいられる。」と書かれていました。投稿を「私はすてきな出会いに感謝している。」と結んでおられましたが、同じ仕事に就いている者にはよく分かることです。

この方は、西原村で陶芸の工房を開いておられた方のように、地震で大きな被害を受けて、現在、工房は閉じられているようです。ホームページには「工房は私のすべてでした。」とありました。本当に大変でつらいことだったと思います。ですが、投稿に書かれてるとおり、知的障がいのある人たちとの新たな出会いができたことは、とてもよかったのではないかと思います。「夢を持っていいのだな・・・」とあるように、この人たちの優しさや温かさが、きっとつらいお気持ちを癒やして、工房再開という夢を持たせてくれると思います。

4月に起きた大地震については、障がいのある人たちへの災害対応という視点からも、さまざまな振り返りが行われていますが、障がい福祉に関しては、今年のもう一つ、7月に相模原市の障がい者施設での殺傷事件がありました。

この事件は、障がいのある本人、家族、福祉に携わる人、その他関係者の心に大きな影を落としています。以前も述べたとおり、犠牲になった人たちの命をムダにしないためにも、二度とこんな事件が起きないようにするためにも、命を大切にす文化や風土、社会を築くことが非常に重要であり、障がいのある人たちのすぐ

側にいる私たちが、社会に向けてもっと発信しなければならぬのだ痛切に思っています。

〇この1年、大変お世話になりました

障がい福祉の世界に入ってみて、第二ぎんなん作業所は本当に地域の方やたくさんの方々に支えられているのだということ、さまざまな機会に実感します。

資源物の回収にしても、実に多くの方にご協力いただき、回収にうかがわせていただいたり、作業所に直接お持ちくださったりしています。日頃のご支援、ご協力に感謝申し上げます。

この1年、大変お世話になりました。職員一同、さまざまな方々とのきずなを大切にしながら、地域に根ざした障がいのある人本位の作業所を目指して、来年もがんばって参りたいと思っています。

どうぞ、来年もよろしく願い申し上げます。



地域にも貢献 受託作業

先日は、熊本市南区にある高齢者グループホームの樹木剪定の依頼がありました。南側に庭があり、その前を川が流れているのに、樹木や竹、藤のツタがうっそうと茂り、まったく日が差さない状態でした。



受託担当の前田です

作業は結構大変でしたが、茂った樹木や竹などを取り除くと、梅・ツツジ・もみじ・モクレンなど、四季を彩る木々が植えられていました。これからは、お年寄りの方々が、日当たりがよくなったリビングや縁側から、庭の木々を眺めて季節の移ろいを感じられるようになると思います。

こういうことを考えると、受託の作業は、もちろん、利用者の仕事を生み賃アップにつながりますが、それとともに、少しでも地域にも貢献できているのではないかなと思ったところ。サザンカもありました



作業前：うっそうと茂る



作業後：すっきりと明るい

朝から道路の清掃活動

作業所のある大井手川沿いの道端にある大きなセンダンの木が落葉の時期を迎え、毎日葉や枝を落としています。作業所から近いので、11月下旬から、朝の早い時間帯に、何人かで清掃活動をしています。冷え込んだ日も、掃除で体を動かすと自然と暖まり、わいわい言いながら清掃に励んでいます。



センダンの木の下で



作業所近くでも

特に週明けの月曜日や雨が降った翌朝などは、葉っぱがたくさん落ちていて作業が大変ですが、時折かけていただく、「ご苦労様」といった言葉も励みにしつつ、作業所ができる地域貢献の一つとして、がんばりたいと思います。

駒込さんが別のサービス事業所に

駒込さんが1月から、グループホームへの入居と併せて、はなぞの学苑へ移るようになりました。

駒込さんは、熊大附属養護学校を卒業後、22年と9ヶ月、ずっと第二ぎんなん作業所でがんばっていました。

明るい性格で誰からも愛される駒込さんでしたので、大変さみしくなりますが、はなぞの学苑や初めてのグループホームでの生活をがんばってほしいと思います。



中央が駒込さん

塀(フェンス)が新しくなりました。

地震で倒壊または倒壊の恐れがあり、撤去したままになっていた作業所の塀を、ブロック塀からアルミのフェンスに変えて、公道面と隣家との間の部分ができあがりました。



フェンスが設置された作業所

老朽化が進み、見た目も古びた印象の作業所ですが、フェンスが新しくなったので、少し見栄えがよくなったのではないかと思います。門扉の部分ができあがれば完成です。

熊福連フェア開催

今年も、「熊福連フェア」が県庁新館ロビーで12月5日(月)～9日(金)の日程で開催されました。初日の5日12時過ぎからのオープニングでは、くまモンも登場しました。

今年も、多くの事業所から、たくさんのお手作りの展示即売がありました。第二ぎんなん作業所も、竹製品やからいもなどを出品(販売)して、たくさんの方に買っていただき、工賃アップにつながられました。



くまモンも登場



県庁2階の野外庭園で

チャリティみかん狩りに参加

天皇誕生日の23日(金)に、宇城市不知火町松合にある県肢体不自由協会の松尾事務局長のミカン畑で、同協会主催のチャリティみかん狩りがありました。作業所からも沖田さん・高橋さんご家族と職員・その家族が参加し、大きくて立派な八朔をそれぞれコンテナ1箱ずつ収穫しました。

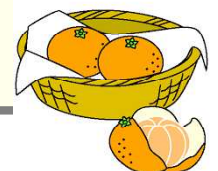
参加者の皆さんの収穫が終わったあと、残った八朔を作業所の販売用として収穫させていただきました。後日、販売したいと思っています。



畑に向かう高橋さん親子



大きな八朔を収穫する沖田さん



いよいよ年の瀬。今年は、4月の大地震が1年のスタートのような感じがしますね。「あの地震から〇ヶ月」という言い方が、一番しっくり来ます。

まだまだ地震による災害の爪痕を多く残している熊本です。24日に南阿蘇村への道路が復旧しましたが、復興が1日も早く進むことを願っています。

この1年、本当にお世話になりました。

すべての皆さまにとりまして、来年がいい年でありますようにお祈り申し上げます。(職員一同)